

[普及事項]

新技術名： 複合交信攪乱剤コンフューザー A の傾斜園地における処理方法（平成 8 ～ 11 年）

研究機関名 果樹試験場環境部虫害担当
担 当 者 大隅専一・舟山 健

[要約] モモシンクイガ、ハマキムシ類、キンモンホソガ、ナシヒメシンクイに効果が認められる複合交信攪乱剤コンフューザー A は、傾斜園地においては傾斜上部や周辺部で効果が不安定である。この園地上部及び周辺部に交信攪乱剤を 2 割程度追加設置することにより防除効果が安定する。

[ねらい]

複合交信攪乱剤（コンフューザー A）はモモシンクイガ、ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類、キンモンホソガの防除に効果があるが、傾斜園地においては傾斜上部や周辺部における効果が年によって振れる場合がある。そこで防除効果が安定する処理方法を検討し実用化を図る。

[技術の内容・特徴]

1．材料及び方法

稲川町東福寺のリンゴ園（傾斜地 1 ha）に 5 月下旬、コンフューザー A を 10 a 当たり 200 本、樹上部に 1/4、目通り部に 3/4 の割合で処理した。1997 年以降は園の上辺部及び左右辺部に 1 樹当たり処理数の 2 割程度を追加処理した。

調査はモニタートラップによる誘殺数及びハマキムシ類、モモシンクイガによる果実被害、キンモンホソガによる新梢被害について行った。

2．結果

- 1) 複合交信攪乱剤コンフューザー A は 10 a 当たり 200 本を処理することにより、モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類、キンモンホソガの防除に効果が認められた。
- 2) 傾斜園地においては園地上端部や周辺部の防除効果が中央部に比べ年によって振れることがあり、特に上端部において被害程度が大きい。（表 1、2）。
- 3) 傾斜園地上端部及び周辺部の樹に、樹当たり標準処理量の 2 割程度を追加処理することにより、モモシンクイガ、ハマキムシ類に対して安定した防除効果が得られた（表 3）。
- 4) キンモンホソガについては追加処理しても被害程度は高いが、追加処理しない場合に比べ被害が軽減され、実害に至らない程度にとどまった（表 4）。

[普及対象範囲]

全県（リンゴ）

[普及・参考上の留意事項]

- 1．交信攪乱剤は広域で処理されるほど効果が安定する。
- 2．傾斜園地上端部及び周辺部の追加処理は、園地内だけでなく隣接の樹木・林地などにも行うと効果がより安定する。

[具体的なデータ等]

表1 均一設置下の被害果調査 (1996)

	園地内 部位	調査 果数	モモシンクイガ		ハマキムシ類	
			被害果数	被害果率 (%)	被害果数	被害果率 (%)
処理区	上端部	2623	0	0	166	6.3
	右端部	1569	0	0	56	3.6
	中央部	1590	0	0	45	2.8
	左端部	1294	0	0	33	2.6
	下端部	1530	0	0	29	1.9
慣行区		1395	0	0	2	0.1

表2 均一設置下のキンモンホソガ新梢被害調査 (1996)

	園地内 部位	調査 新梢数	調査 葉数	被害 葉数	マイ ン 数	新梢当たりマイ ン数		
						第1-3世代	第4世代	計
処理区	上端部	60	1059	756	1719	10.67	17.98	28.65
	右端部	60	1020	441	795	5.00	8.25	13.25
	中央部	60	1149	391	549	2.03	7.12	9.15
	左端部	60	1103	629	1439	4.65	19.33	23.98
	下端部	60	1165	389	599	2.18	7.80	9.98
慣行区		100	2094	188	283	0.56	2.27	2.83

表3 追加設置下の被害果調査 (1997)

調査位置	調査果数	モモシンクイガ		ハマキムシ類	
		被害果数	被害果率 (%)	被害果数	被害果率 (%)
上端部(右)	600	0	0	0	0
上端部(左)	2623	0	0	15	0.6
右端部	1774	0	0	0	0
左端部	2027	0	0	1	0.0
中央部	1711	0	0	0	0
下端部	1826	0	0	0	0

表4 追加設置下のキンモンホソガ新梢被害調査 (1998)

	園地内 部位	調査 新梢数	調査 葉数	被害 葉数	マイ ン 数	新梢当たりマイ ン数		
						第1-3世代	第4世代	計
処理区	上端部	60	657	457	1307	8.9	12.9	21.8
	右端部	60	974	174	245	2.5	1.6	4.1
	中央部	60	603	137	210	1.8	1.7	3.5
	左端部	60	686	166	227	1.7	2.1	3.8
	下端部	60	701	219	312	3.1	2.1	5.2
慣行区		60	714	149	586	8.3	1.5	9.8

処理区は園地上端部及び周囲部の樹に20%追加処理、慣行区は無処理

[発表文献等]

なし